

コース別選択科目「学校改善の実践的研究」 －四国3大学間での高度情報技術を活用した通信遠隔授業－

教育実践高度化専攻 露口健司

授業の到達目標

授業の到達目標は、「働き方改革、社会関係資本、幸福感、リーダーシップの視点から、学校をよりよくする方法を提案することができる」である。

授業計画

本授業は、以下に示す5つのテーマから構成されている。

- ①働き方改革と学校改善
- ②学校改善におけるつながりの意義
- ③幸福感を高める学校経営に向けて
- ④四国の「校長の指標」
- ⑤リーダーシップについて考える

授業方法

鳴門教育大学と香川大学が参加しての双方向型遠隔通信方式の授業を、8月28-29日の2日間、愛媛大学教育学部 ICT クラスルームを核として実施した。本科目は、四国3大学の単位互換科目である。受講者は愛媛大学7名、鳴門教育大学5名、香川大学1名の計13名（現職教員12名・ストレートマスター1名）であった。

ICT クラスルームは、通信用カメラ3台、スピーカー2台、スマートボード1台、タブレット30枚、学習アプリ（MetaMoji）、プログラミング学習用ロボット（Pepper）が配備されている国内でもトップレベルに充実した教室である。本科目では、他大学との円滑な通信技術の他、授業の複数場面で高度情報技術を活用している。

- ・感情認知 AI 搭載ヒト型ロボット Pepper による挨拶。
- ・タブレットとスマートボードの連動によるデジタル付箋を使用したワークショップ
- ・Google フォームを活用したアンケートと即時的フィードバックの実施。
- ・ユーザーローカルのテキストマイニング技

術を用いて、学習者の回答結果を視覚的に表現。

・発表者の発言内容を、同じくユーザーローカルのテキスト化技術を用いて、スマートボードに表示。双方向型遠隔通信授業では、音声の聞き取りに問題があったが、それを克服できている。

授業評価

遠隔通信授業の自由記述アンケートでは、「はじめて経験する授業スタイル」「授業内容よりも、AI技術に圧倒された」「授業で登場した技術をぜひ勤務校でも活用したいと思った」等の肯定的意見が大半であった。2年前に指摘されていた映像送信技術の問題は、今回発生しておらず、5Gワールドにおいて、通信遠隔授業は飛躍的に広がりそうである。

地域社会を核とした教育と研究のつながり

本科目で使用した技術は、大学間だけでなく、公立学校や教育委員会等との間においても応用を進める予定である。次年度は、愛媛県内で研修機会が乏しい地域と愛媛大学とを接続し、愛媛大学での講義を配信する予定である。また、授業で扱った働き方改革をテーマとする校務支援デジタル教材（ユーチューブ版）を開発し、全国に配信する予定である。

